

2 中高連携授業変革の歩み

(1) 中津川市立坂本中学校における実践

授業実践

授業実践に向けての構え

昨年度の実践交流から得た成果と課題から、中学校3年間、高校3年間でそれぞれ付けるべき英語の力と、その系統性を見出すことが必要であるという認識のもとに本年度の実践を始めた。付けたい力を6年間の見通しの中で生徒にどのように身に付けさせるかが課題となる。

本年度は、**listening** と **speaking** の指導に重点を置き、特に基礎的・基本的な内容の定着を図るため、学習過程における指導の工夫を以下のように考えてきた。

- () 1時間の中でできるだけ英語に浸らせる時間を多く持った。例えば、本文の導入の場面では絵や写真などを手がかりにしながら英語を使って生徒とインタラクションしながら導入するように心がけた。
- () 言語活動に必要な語彙や表現の定着を図るために、生徒同士で実際に語彙や表現を使う時間を多く設定した。語彙の確認や練習においてもペアで行なうようにして、生徒が英語を使う回数をできるだけ多くするよう工夫した。
- () 活動内容に応じてペアやグループの学習形態を工夫した。相互評価をするためにペアを活用したり、学習した表現をできるだけ多く使う機会を持てるようにスクランブルを活用したりした。

第1回授業交流研究会

【日時】 平成14年 6月10日(月)

【公開授業】

- ・単元名 NEW CROWN ENGLISH SERIES 2 Lesson 2 Mukami 's Three Languages
- ・授業学校・学級 : 中津川市立坂本中学校 2年3組 指導者: 辻村隆文教諭
- ・主な提案内容

授業形態の工夫

基本となる既習・新出の語彙や表現の定着を図るため、教師の指導後、音読練習・意味の確認・スペルの確認などをペアで行なわせてきた。その手だてにより次の成果が得られた。

- ・既習・新出の語彙や表現の定着が図られるようになり、題材内容に対する生徒の理解がより確かになってきた。
- ・生徒相互に評価でき、教え合う関係をつくりだすことができた。



【授業研究会】

- ・生徒が生き生きと、誰とでも恥ずかしながらペア活動をしている姿が大変ほほえましい。
- ・授業では多くの生徒が積極的に挙手発言する姿があったが、高校への進学後も含め、学年が進むにつれて挙手が少なくなっている実態があるため、指導法を工夫する必要がある。
- ・ペア活動において自分たちで語彙の確認をすることは緊張感も生まれ、良い方法のひとつだと思えた。高校の授業においても使えそうである。
- ・Classroom English を多用することが生徒の聞く力を伸ばし、英語を使う雰囲気づくりになるので、これからの授業においても積極的に使いたい。

第2回授業交流研究会

【日時】 平成14年10月23日(水)

【公開授業】

・単元名 NEW CROWN ENGLISH SERIES 3 Lesson 5 Show and Tell

・授業学校・学級 : 中津川市立坂本中学校 3年4組

(生徒の自己選択によるコース別少人数学級 16名) 指導者: 安江辰司教諭

・主な提案内容

話す力をつけるための指導の工夫

生徒が日本語の意味にとらわれず、英文を生成する能力を育成できるように、次の() ~ ()の手立てを考えた。

() 基本となる文型のパターンをもとに、自分が言いたいことがどのパターンで言えばよいかをとらえさせる。

() 生徒にはあらかじめ英文は用意せず、自分の説明したい内容に必要な語彙を調べておき、ワードバンクとして利用させる。

() 基本となる英文作成のためのテンプレートを用意し、語順に注意しながらそれにしたがって英文を作り出させる。

生徒が意欲的に話すための指導の工夫

自分の大切なものについて相手にその実物を見せながら英語で説明するという授業を仕組んだ。どういう理由で大切なのかなどの説明する必然性があり、生徒はなんとか相手に伝えようと意欲的に英語を話す姿が見られた。

成果: 以上の2点の工夫により、生徒はあらかじめ英作文をしなくても、その場で考えながら英語を話そうとする姿が見られた。



【授業研究会】

- ・英語を使う時間が圧倒的に多く、生徒が生き生きと活動できた授業であった。
- ・はじめはメモを見るなどしてぎこちない面もあったが、相手との対話を重ねるうち、メモを見ないで相手に伝えられるようになりスムーズな説明ができるようになった。
- ・指導者の意図するねらい沿ってに生徒をうまく活動させることで、training 的な活動についても目的意識をもって取り組むことができた。
- ・全体の場において、教師が生徒の良かった面を引き出すなどの評価の工夫がみられた。
- ・もう一方の学級(基本的な語彙、表現を習得する授業)の生徒への指導の工夫が必要である。

グローバル・スタンダードによる英語力診断

ケンブリッジ英検ヤングラーナーズテスト受験

実施日時: 平成14年7月実施

(考察)

- ・スターターズ受験者: reading, writing, listening は正答率が高く、speaking はその能力に若干弱さがみられた。
- ・ムーバーズ受験者: どの領域においても平均的な力を発揮することができた。
- ・フライヤーズ受験者: speaking の能力は平均的であったものの、他の領域については高い正答率が見られた。

(生徒の感想から)

「speaking の試験で、絵を見て説明するのがあったけれど、間違っただけでいいと思って緊張してしまったので力が出せなかった。」

「難しかったけど、合格・不合格というのがなくて自分の達成度がわかるのでいい試験だと思った。」

(結果から今後の取り組みについて)

今後、特にspeakingの力を伸ばすために、授業で一問一答のコミュニケーションだけでなく、絵を見て複数の英文で状況を説明する活動を仕組んだり、話すことの試験を取り入れて評価したりするなど、活動内容や評価方法の工夫が必要であると感じた。

イマージョン・プログラム

() 外部講師の招聘

1・2年生の選択英語のプログラムに、ネイティブ・スピーカーによる英語の授業を組み入れた。事前にALT派遣事業所と連絡を取り合い、授業内容を十分に打ち合わせるようにしてきた。

(授業の活動内容)

・英語によるcookingの授業：調理室においての調理実習。レシピや料理の説明など全て英語で行なった。



・異文化理解、コミュニケーションの授業：自己紹介、買い物や道案内など日常生活に近い英語の使用場面を設定し、コミュニケーション活動を行った。

(生徒の様子・感想)

・上記の例に見られるように、生徒の興味・関心を生かしながら多様な活動を行うことができ、生徒はとても意欲的に参加していた。

「英語で行う調理と聞いて少し不安だったけど、やってみるととっても面白かった。」

「何を言っているかわからないときがあるけど、なんとかわかる時が増えてきたのでうれしい。」



() 英語図書・映像資料の購入

・英字新聞(朝日 weekly 週刊 student times)の定期購読。

・洋書の絵本や、読み物、絵入りの辞典などの購入。

上記は図書室に常設し、閲覧できるようにしている。生徒は昼休みの開館時間に閲覧したり、授業での調べ学習に利用したりしている。

・NHK教育テレビで放映されている「とっさのひとこと」など映像資料の購入。

通常の授業、選択授業でもrole-playingの活動をする際に、その場面をイメージさせることができ、効果的である。

成果と課題

本校の実践と授業交流から得られた成果と課題は次のようである。

成果

- ・語彙の定着を確認したり評価したりする手立ては、言語活動や題材の内容理解に効果的であった。
- ・日本語の意味にとらわれず英語で発想し、適切な語順で話すことができる生徒が増えつつある。
- ・中学校時代に英語の基礎的・基本的な内容を定着させることが、進学後の英語のコミュニケーション活動に大きく影響を及ぼすことが再認識できた。

課題

- ・中学生の段階では、聞くこと・話すことの指導に重点をおきながら、読むこと・書くことについても中高6年間を見通して、どのような力を付けるべきかを明確にした指導を計画的に行なう必要がある。